

子どもの権利条約日本シンポジウム：子どもの日全国一斉イベント

“親子の引き離し”を生み出す日本の社会構造を考える — 子どもの権利に関する国連への報告書作成に向けて —

日本における現在の、児童虐待への対応（一時保護）や、その後の社会的養護への移行等に伴う親子の引き離し状況、離婚等に伴う親子の引き離し状況等については、子どもの権利条約第9条（親子不分離の原則）や同第18条（実親による共同養育の原則）等の国際基準に照らし、子どもの最善の利益を損ないかねない憂慮すべき事実も、数々報告されています。

しかし、これら問題ではしばしば個別ケースの検討や理解に認識が偏るなど、社会問題としての認識を形成しにくく、従って、有効な社会的対応がなかなか展開されていない状況に直面しています。

今回、子どもの権利条約に関する次回審査に向けた国連への報告書作成に当たり、私たちは、「木を見て森を見ず」ではなく、問題の全体像や本質について、あらためて整理する必要性を感じています。

今回のシンポジウムでは、「親子関係（代替的家族関係を含む）が理不尽に破壊される」という問題状況に直面して、それらを生み出している日本社会の社会的背景（構造）を探り、今後どのような解決が望めるのか、整理する機会にしたいと思います。

【日時】 2016年5月5日（木）13時30分～16時30分

【場所】 豊島区東部区民事務所会議室 <http://loco.yahoo.co.jp/place/g-46hrtR0d-qM/map/>
東京都豊島区北大塚1-15-10（大塚駅北口より徒歩5分）

【司会・話題提供】 須田桂吾（児童養護施設 臨床心理士）、宗像 充（Kネット代表）、海老名修乃介（親から不当に引き離された子どもの権利を守るために悪戦苦闘する父親）、水岡不二雄（一橋大学特任教授）、加藤久美（里親、中井町議）

【費用】 500円（当日、会場でお支払いください）

【主催、問い合わせ、申し込み先】

子どもの権利条約日本（子どもの権利のための国連NGOです。当面の間、DCI日本の名称使用を控えさせていただきます）

メールアドレス：office@dcj-japan.com / 電話：03-5961-0387

プログラム

司会：須田桂吾

問題提起：須田桂吾 「今“親子の引き離し”という問題状況を広く社会的視点で捉えることの意義について」

話題提供（離婚問題）：宗像充・海老名修乃助「別居親がわが子と分断される社会的背景について」

話題提供（児相問題）：水岡不二雄「児相利権の構造と機能」

話題提供（里親問題）：加藤久美「里親及び議員等の立場から見る“引き離し状況”について」

フロアとの質疑応答

シンポジストのプロフィール

■須田 桂吾

児童養護施設に勤務する臨床心理士。離婚と子どもの問題、児童養護施設における諸問題（各種の構造的な暴力状況・例えば子どもに対する向精神薬の過剰投与の問題、職員の労働問題等）に取り組む。専門は、臨床心理学、家族療法、国際学等。社会福祉学修士、国際学修士。

最新のルポルタージュに「虐待生み出す“ブラック施設”化の実態」（『週刊金曜日』平成28年2月12日）がある。

■宗像 充

フリーライター。登山、環境問題、家族の問題などをテーマに執筆。共同親権運動ネットワーク運営委員。非婚の父として2年間子どもと暮らした後、人身保護で子どもを引き渡す。その後引き離しの被害に遭い、別居たちの権利回復の運動を組織。別居、同居家庭の格差是正を掲げて共同親権運動を提唱。共著に『子どもに会いたい親たちのハンドブック』（社会評論社）。

■海老名修之介

いわゆる“毒親”とその娘、および弁護士を含む女性の権利を謳う関係者によって“DV夫”に仕立て上げられ、大の仲良しだった子どもと会うこともできなくなった2児の父親。子どもの尊厳と権利を守るために、日本社会の不条理および弁護士、行政、警察、裁判所と真剣に向き合って、叩かれ苦しみながらも、なんとか諦めずに闘っている、実はただ子どもと遊んでいただけのメディア関係者。

■水岡不二雄

経済学者。専門は、経済地理学。一橋大学名誉教授。

児童相談所の問題を扱った論文に「市民の権利と、権力装置化する児童相談所：予防拘禁への道ひらく機能的治安法としての児童虐待防止法」（インパクション, 193）、最新の著書に『児相利権：「子ども虐待防止」の名でなされる児童相談所の人権蹂躪と国民統制』がある。

■加藤久美

神奈川県出身。中井町町議会議員。日本フォスターケア研究会理事。神奈川県認定の里親でもあり、元市役所生活保護面接相談員。社会的養護・貧困等の問題を含め子育て問題全般に取り組んでいる。